

閑上共同体再生・地域資源再発見事業

自治体情報 宮城県名取市

人口 / 71,844人 標準財政規模 / 14,467百万円

担当課 総務部政策企画課
電話番号 代表 022-384-2111
実施主体 名取市
関連ホームページ

事業期間 平成24年度から
関係施策分類 ②、⑦-ウ

予算関連データ

総事業費：12,400千円

名称	所管	金額(千円)
復興交付金	国土交通省	12,400

施策のポイント

津波により壊滅的な被害を受けた閑上地区のコミュニティの再生を目指して、専門家の知見を活用しながら、協働で地域資源の掘り起こしに取り組むものである。郷土への思いを喚起することで、地域活性につなげることを目的とする。

施策の概要

1. 取組に至る背景・目的

東日本大震災により、市の沿岸部にある閑上地区は津波で壊滅的な被害を受けた。震災からの復興には、そこに住む人々のコミュニティの再生が欠かせない要素である。特に閑上地区は長い歴史を持ち、生活習慣やことばなど、地域文化そのものが貴重な資源であると考えられる。

こうした地域文化を再発見する様々な事業を実施し、従来の住民のみならず、地区外の人々にも閑上の魅力を紹介し、観光振興・移住交流の促進を目的とする。

2. 取組の具体的内容

この事業には、もとの住民の記憶とともに、外部からの客観的な視点が欠かせない。そこで、学生との協働により事業を進め、より効果的に地域資源の掘り起こしにつなげていくものである。閑上地区の住民に地域の魅力の聞き取りを行い、これを生かした「閑上への旅」を住民と共に作り上げていく。活動当初は東京・地元の大学の学生を中心として地域文化の発掘を行い、「閑上への旅」づくりからは地元の住民主体の活動に繋げていくことを目指して、住民の方を巻き込んでワークショップの手法を用いて進めていく。

3. 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

震災からの復興に取り組むにあたり、被災した市街地の再建は重要課題の一つである。住民の方が一人でも多く閑上に戻り、交流人口の増加につなげ、閑上のコミュニティの再生と地域の仕事づくりにつなげる。

4. 現在までの実績・成果

平成24年8月26日に、市内の復興仮設商店街である「閑上さいかい市場」において、閑上地区の名物として住民に愛されたたこ焼きを再現するイベントを開催した。催しは明治大（東京）と尚絅学院大（名取市）の学生らでつくる団体が主催した。当日は多くの人出で賑わったほか、仮設商店街「閑上さいかい市場」の定例イベントでの継続実施につながるなど、地域の文化を核とした自主的な取組を促すことができた。

5. 導入・実施にあたり工夫した点や苦勞した点とその対処法・解決策など

大学の先生には大学の授業の中でのフィールドワークとしての運営に協力いただき、東京圏の学生と地元の学生が地元の仮設商店街や住民の方との接点の調整は行政が行う、若者・よそ者視点での新鮮で具体的な事業企画は学生が行うと、それぞれの持ち味を生かした役割分担により協働で事業を進めている。

6. 今後の課題と展開

フィールドワークやたこ焼き再現イベントを通して収集した地域の資源などをもとに、閑上の住民や事業者の方と一緒に閑上への「旅」をワークショップを開催して企画、実施しながら、自主的な取組に繋げていく。